



# あゆみ

〈教育目標〉  
やさしく  
かしく  
たくましく

雨にぬれるアジサイが美しい6月となりました。平成28年度がスタートして、早いもので2カ月が過ぎました。1学期も折り返しの時期になりました。水泳指導も始まり、日中は初夏を感じる暑さが続いています。梅雨に入り、雨や蒸し暑い日が多くなると、体調も不調気味になります。この時期を元気に乗り越え、学習に集中するためには、毎日の体調管理が大切になります。睡眠や朝食をしっかりとり、規則正しい生活ができるよう、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。



## わんぱく集会を通して

「6年生、大好き。6年生は優しい」この言葉は、先日、縦割りの『なかよし班』で実施した『わんぱく集会』後の1年生の子どもたちの感想です。

現在、全国的に兄弟姉妹等の減少などにより、子どもたちが異年齢集団で一緒に遊ぶ機会が少なくなりました。そのため、仲間とのかかわり方や遊び方に問題が見られるようになってきたことは否めません。本来は地域の中で遊び等を通して身につける力が、今は学校の中で異年齢集団を作り、意図的に活動させることで、より良い人間関係を作ることが必要になっています。

同年齢集団、異年齢集団では次のような長所、短所があります。

	長所	短所
同年齢集団	同学年なので、気心が知れていて、互いに理解しやすい	常に一緒にいるので競争心が強くなり、排他的な関係になることもある
異年齢集団	異学年なので、下学年への思いやりや上学年への尊敬の心が育つ	普段は別なので相手を理解しにくく、命令・服従の関係になることもある

睦小学校では、『みんなと協力し、仲良くする子』を育てたいと考えています。今後も、清掃や給食、共遊などで『なかよし班活動』を積極的に行い、上学年がリーダーシップを発揮し下学年を思いやり、下学年が上学年を見本にし尊敬できるような子どもを育てていきたいと思ひます。



## お願い 学年×10分+10分

今年度、本校では家庭学習の習慣を定着させることを積極的に行っています。先日も『家庭学習はりきり週間』を行い、保護者の方にも『家庭学習カード』を見ていただきました。今後も、どの学年も『学年×10分+10分』を目標時間として、家庭学習の習慣化を図っていきたく思ひます。学力の向上、生涯において学び続ける素地作りのため、保護者のご協力をお願いいたします。

## 『当たり前のこと』が当たり前に見える

「陸小の子どもたちは、挨拶がしっかりできますね」

この言葉は、本校に転任してきた教職員が4月当初に語った感想です。人は誰でも挨拶の大切さを理解しています。そして、挨拶は人と人とが関わる社会では、不可欠なものであるとだれもが感じていると思います。

しかし、現実的には発達段階の異なる1年生から6年生までの子どもたちが学ぶ小学校において、この『当たり前』のことを実行し続け、定着させることは決して簡単なことではありません。また、挨拶は家庭や地域の中でも必要なものであり、学校だけの指導で定着するものではないということは明らかです。

ご家庭での日々のご指導、そして地域の皆様のご支援があったればこそ、定着するものだと思います。

最近、学校のトイレのスリッパが乱れていることがあります。それに気が付き、進んで揃えている児童がいます。この詩を作った長野県の円福寺の住職藤本幸邦さんは、終戦直後に多くの子どもを預かり、家族のようにして育ててこられました。玄関の靴が乱れているのを見てこの詩を作り、論じたそうです。

壬生町はどの学校でも家庭と連携しながら『あいさつ、返事、靴揃え』がきちんとできるように指導を進めています。『当たり前のこと』ですが、それができるように、ご家庭でも挨拶や礼儀正しい態度や言葉遣い、行動の仕方などについて話題にしていたくなど、引き続きご理解とご協力を頂ければ幸いです。



はきものをそろえると心もそろう  
心がそろうとはきものもそろう  
ぬぐときにそろえておくと  
はくときに心がみだれない  
だれかがみだしておいたら  
だまってそろえてあげよう  
そうすればきっと  
世界中の人の心もそろうでしょう

## 運動会種目『組体操』について

本校では、運動会の集団演技として毎年『組体操』を実施していました。この『組体操』について、3月25日にスポーツ庁より次のような通知が出されました。

- 組体操等における事故の防止について（通知） スポーツ庁
- 1 各学校においては、組体操を実施するねらいを明確にし、全職員で共通理解を図ること。
  - 2 各学校においては、練習中の児童生徒の習熟の状況を正確に把握し、その状況に応じて、活動内容や指導計画を適時適切に見直すこと。（以下略）
  - 3 各学校においては、タワーやピラミッド等の児童生徒が高い位置に上る技、跳んできた児童生徒を受け止める技、一人に多大な負担のかかる技など、大きな事故につながる可能性のある組体操の技については、確実に安全な状態で実施できるかどうかしっかり確認し、できないと判断される場合には実施を見合わせる事。
  - 4 各小学校においては、組体操に関して小学校での事故の件数が相対的に多いことや、小学校高学年は成長の途中で体格差が大きいことを鑑み、在籍する児童の状況を踏まえつつ、事故につながる可能性がある危険度の高い技については特に慎重に選択すること。
  - 5 各教育委員会は、（以下省略）

また、6月に実施された壬生町校長会、教頭会、教務主任会において壬生町教育委員会より『組体操』の実施について指導がありました。これを受け、検討した結果、本校では児童の安全が十分に確保できない等の理由から、今年度以降、『組体操』を実施しないことにしました。

今後は、『組体操』にかえて高学年で実施する種目について、体育主任、高学年担任等を中心に検討をしていきたいと思ひます。

